直言

SOCIALISM ＝ソーシアリズム＝社會主義＝社會主義は土地、資本、其他あらゆる生産機關の公有を主張する者なり

第二十七號

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

(平民社電話　本局三二六二番)

難者に答ふ

堺利彦

某君足下、足下僕を以て一身の不平の爲に社會主義を唱道する者と爲す。僕一言する所なきを得ず。

僕半生の沈淪、足下の詳悉する所の如し。僕實に不平なきを得ず。僕の年少にして氣を負ふや、敢て其の境遇の非に抗して一身の開達を希ひ、不平滿々全身の毛孔悉く露出するの慨ありき。然れども年漸く長じ、世態人情を觀ること漸く密なるに及び、僕の不平は單に僕一身の不平に非ず、僕の不平は先づ僕と同一境遇に在る青年書生を代表するの不平となり、次に更に一歩を進めて貧民階級全體を代表するの不平となれり。即ち僕の不平は個人的よりして代表的に進み、私憤よりして公憤に移れり。若し夫れ更に此の階級的公憤を進めて、醇正博大なる愛人救世の熱情と爲さんことは、(假し遂に到達し得べからざるにせよ)僕が心中に於ける最後の願なり。足下猶ほ能く一言にして僕の不平を難ぜんとする乎。

某君足下、足下又僕を以て貧民勞働者を教唆煽動し、彼等の私慾心を刺激し、彼等の憎惡心を挑發する者と爲す。僕又一言する所なきを得ず。

見ずや、今の紳士閥が貧民を凌辱し、勞働者を掠奪することを、足下豈に之を知らずと云ふを得る乎。而して貧民勞働者の多數は眠れり。彼等は決して滿足せるに非ず、安心せるに非ず、彼等は只醒めざるのみ。茲に人あり、彼等の眠れるを見るに忍びず、大聲疾呼して其の覺醒を促す。是れ果して彼等の私慾心を刺激するものなる乎。彼等の眠れるに乘じて紳士閥が其の掠奪凌辱を繼續するは可也、彼等をして其の悲慘なる境遇を自覺せしむるは不可也と謂ふ乎。足下の仁慈なる、豈に斯の如きの觀を爲すの理あらんや。

次に、彼等稍既に自覺すれば、其の前面に於ける敵手として必ず紳士閥の階級を認識せざるを得ず。之を認識して之を滅亡せしめんと欲し、之を滅亡せしめんと欲して之と鬪爭す。是れ果して憎惡心挑發の結果なる乎。紳士閥が種々の小惠と種々の粉飾とを以て貧民の眼を潰すは可也、貧民が其の敵手を正視して防衞進擊の態度を爲すは不可也と謂ふ乎。足下の公明なる、豈に斯くの如きの觀を爲すの理あらんや。

貧民勞働者が其の悲慘なる境遇を自覺し、其の正面の敵手を認知し、而して當然そこに起り來るべき階級鬪爭の方策を建つ、是れ豈に公明正大の事に非ずや。是れ彼等の私慾に非ずして自衞の權利なり。是れ敵手に對する憎惡に非ずして同階級に對する犧牲の心なり。若し其中眞に憎惡の心ありとせば、そは階級に對する憎惡なり、組織に對する憎惡なり、決して人に對する憎惡には非ざる也。彼等は自己の階級を救ふと同時に、併せて敵手の階級を救ひ、遂に人類同胞をして悉く安樂郷に入らしめんことを期する者なればなり。足下猶能く教唆煽動の一語を以て僕等の行爲を難じ去んとする乎。

某君足下、足下又社會主義者を以て、常に悲慘と罪惡との原因を社會に歸し、個人の責任を輕んずる者と爲す。僕又大いに辯ずる所なきを得ず。

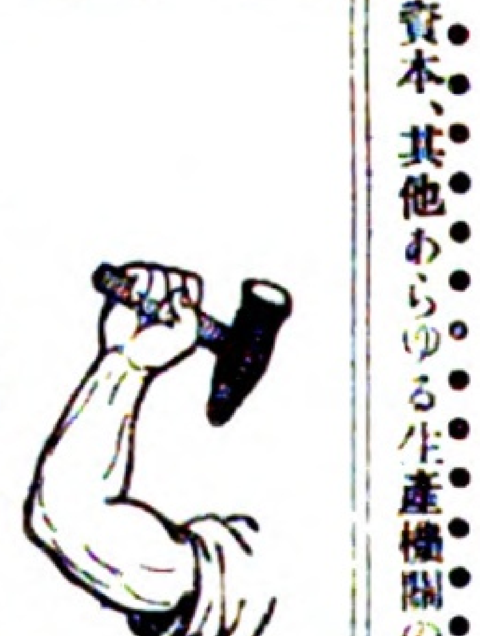
僕等社會主義者が悲慘と罪惡との原因を社會の組織に歸すること、實に足下の言の如し。然れども社會主義者は決してそれが爲に自己の責任を輕んずる者に非ず。社會主義者は社會と個人とを分離して考ふること能はず、社會を離れて個人あることを信ずる能はず。故に個人の悲慘に陷り、罪惡を犯すを見るや、其の責任を個人に問ふの前、先づ之を社會に問はんと欲す。而して個人を詰責するよりは、早く其の社會を改革せんと欲す。個人主義の人に在りては、世に悲慘罪惡ありと雖も、必ずしも我が關する所に非ず、我は我一身を幸福にすれば足れり、我は我一身の安心を得れば足れり。故に彼等は他人を排擠して成功を追ひ、或は獨り己れを潔ようして隱遁を爲す。社會主義者は則ち然らず。彼等は社會の不完全を見て直ちに自己の不完全なりと感ず。他人の悲慘と罪惡とを見て直ちに我れ彼をして此に至らしむと感ず。故に彼等は他の個人を責めざれども、深く自己の責任を感ぜざるを得ず。即ち彼等は自己の一身を擧げて社會改革の用に供せざるを得ず。僕等の心事、實に斯くの如し。足下猶は能く『個人の責任を輕んず』る者として、一言の下に僕等を難じ得たりと爲す乎。匆々不盡。

●日本婦人の新使命

『私は切に云ふ、須く渡米せよ。特に婦人諸君に於て其必要をより多く認める。家庭を營むは祖先の土地ばかりに限った事はない。理想あり、勇氣あり、忍耐あり、信仰ある處、何處でも[illegible]の花は幸福に咲くのである』(家庭雜誌、安部磯雄)

あゝ人類は醒めざる乎

孤劍



銀燭ゆらぐ高樓や
口紅艶に舞姬は
桃花の扇に祝ぎ歌を
將軍笑みてかたむくる
觴盞の杯にもろ酒は
これ同胞の鮮血ならずや

惡魔も馳つる殺戮の
焔の車走り來て
阿鼻叫喚の大屠場
鮮血は夕陽に輝けば
黑風白雨野をこめて
燐火沙場に亂るゝよ

楊柳も煙る京城や
金鞍白馬目も燦に
天地どよます凱旋の
曲にくろひて市人は
國の譽とくさぐさの
花環を投げてうちはやす

小田すく人もあらなくに
柱もゆがみ窓もやれ
五月雨くらき燈火や
病める母の膝さへ
青き飢の其の面に
孤兒の涙や熱からむ

見よ法燈の油盡き
聖壇消え滅しぬれ
悲憐の御法も同胞を
殺すを祈り勝つを祝ぎ
博愛の名を額にして
砲と劍に讚美する

あゝ人類は醒めざる乎
天にみなぎる上帝の
怒の弊を避くべきや
富士の御山も「恥辱」て立ち
太平洋も今よりぞ
「罪惡」の波のせて行け

THE CHOKUGEN.
(The Plain Speaker.)
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.

Vol. II. Tokyo, August 6th, 1905. No 27.

COMRADE KOTOKU RELEASED.

Comrade Kotoku has been released from the prison on the early morning of the 28th ult., as it was stated. About one hundred of our comrades, notwithstanding the rainy weather, were assembled just before the gate of the prison to welcome the long suffered martyr. Mrs. Kotoku and other several women were seen there also. Comrade Kotoku is very much weakened from his chronic diarrhoea. He is intending to go to Odawara, the seashore, to recover his health.

He had received many letters and cards from foreign comrades of all the worlds. Above all others, one from a comrade of Liverpool written in the Esperanto, and one from a comrade of Bargaria, were most interesting for him. On hearing this, we are deeply moved to think that the international socialism has made a great progress in this manner.

IMITATION OF THE "KRUPP" FIRM.

The Kanegafuchi Textile Company whose stocks are mainly owned by Mitsui family, one of the two greatest capitalists in Japan, has made a great profit during the last year, the war being very favourable for the business of that firm while it is almost bankrupt for the state and people.

And the firm now declared to have established many plans of good treatment for its employee. It has adopted an institution of the Mutual Aid Association following after the system of the "Krupp" firm of Germany.

By this institution the employee are helped in their means of living in the case of sickness or injury, and are fully paid, it is said, in the expence of funeral and the living of the family in the case of death. Moreover they are pensioned after continuous employment of a certain term of years.

The Association was opened to business from the 1st of June last. And in the end of June, the sum of premium subscribed by the members amounted to 3050 yen, the same sum being contributed by the firm. The expenditure was only 1200 yen. So the sum of the fund, it is stated, shall be amounted to upwards of 100,000 yen after three years.

Besides that, the firm deposited the sum of 100,000 yen out of the profit of the last half year as the "Labourers' Happiness Increasing Fund" &c. And the firm concludes that the happiness of the employee shall be thus gradually increased according to the prosperity of the firm.

We do not believe of course that these institutions shall be so efficatious. But something is better than nothing. And this is even the effect of the gradual awakening of our proletariat and the intense terror of the capitalist class. So the Japanese proletariat must be more brave and patient to get more and more happiness, learning the organization and discipline of the socialist workers in Europe while the capitalists are learning the cunning institutions of the "Krupp" firm and others.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○二個の同盟罷工

去月末、大阪と銚子との二個の同盟罷工あり、新聞紙の記す所に依れば、其の事實の大要左の如し

▲大坂アルカリ會社の同盟罷工　此會社は明治十二年四月の設立にかゝり、一百萬圓の資本をもつて、硫酸苛性曹達、晒粉などの製造販賣を業とし、現在にては技師以下技手、工手、職工等常雇の者七十餘名と臨時雇の者五十餘名を使役して相當に營業をなし、本年前半期の如きは一割二分の利益配當をなせし程なり

△斯く同社が追々好況に向ふに拘らず、依然として職工待遇の道を改めず、賃金の如きも先年制定したる一人一日最高一圓四錢(工手)、最低三十五錢(職工)の儘なるを不當とし、職工等は過般來會社に向つて再三再四賃金の値上を迫りたり

△會社にては之に對し、重立ちたる當事者三四名協議の上、日給五十錢以下のものに限りて五錢づゝ値上げする事に定め、その旨職工等に言ひ渡したり

△然るに職工等は之に滿足せず、長谷川熊吉に對して不平を抱き、遂に谷川を毆打するに至り、會社は更に讓歩して、一般の職工に五錢づゝ値上を爲す事となれり

△然るに職工等は猶ほ此の些細の讓歩に滿足すること能はず、去廿三日の夜、更に當直技手菅原某を毆打し、其翌日より同盟罷工の計劃を爲せり

△會社は此に至つて急に強硬の態度を取り、廿五日朝に至り斷然百二十名の職工を解雇し、一時休業する事となれり、而して毆打の主謀者數名は警察に拘引せられたり

▲銚子汽船會社の同盟罷工　此會社に屬する汽船は銚子丸一號乃至六號の六艘にして、一艘六七名宛の水夫と火夫とが乘込居り、彼等の月給は七八圓より十一圓五十錢位迄なるが、利根上流を航する東京内國通運會社の水火夫には月給の外、月三圓の特別手當なるものあるを見て、我等も責めてとれと同樣の待遇を受けたしとて、三十三名の水火夫連名の陳情書を作り、去月十五日社長岡本金兵衛に郵送せり

△然るに會社にては願意を採用せざるのみか、十七十八の兩日、右の水火夫を呼び寄せて、嚴しく說諭を加へたり

△水火夫等は此に於て大い激昂し、本銚子町濱宿の旅人宿橋本屋に集會を催し、十八、十九の兩日、示威的同盟罷業を爲せり

△會社に於ては取り敢へず通運會社より人夫を借受けて汽船の運轉を繼續し、將來の爲もあればとて、直ちに火水夫一同を解雇せんと威嚇したり

△然るに汽船會社前の旅人宿山崎屋の主人が此の對駁を見て兩者の間に仲裁を試み、會社よりは物價騰貴の今日故時機を見て增俸を爲すべしとの口約を取り、一同よりは會社に對して謝罪的誓約證を徵して調停整ひたりと云ふ

吾人は此の二個の事實に於て、資本家が其の智謀と實力とを以て多く勝利を占むるを憎み、勞働者が其の團結と準備との足らざるが爲に遂に不成功に終るを悲むと雖も、而も勞働者が漸く資本家に向つて對戰せんと欲するの意氣を示すを見て愉快の感を禁ずること能はず、又是等の事實に就き地方新聞が左の如き評語を下せるは吾人の深く喜びとする所なり

△大阪朝日新聞　事は一會社と少數の職工との間に生じたる小紛擾なれども、やがて是れ資本家と勞働者との間に起るべき社會的の問題とも見るを得べければ、吾等はこの事件の成行を仔細に報導すべし

△東海新聞(千葉)　由來改革の業は資本家の任意の善行にあらずして勞働者に因りて感得したる一個の恐怖心の作用なること史迹の證明する所ならざるはなし、此點より言へば同盟者今回の行動の如きは將來に於ける幸福の第一の犧牲なりと評せざる可らず

○義僕旌表式

去月廿五日兵庫縣印南郡阿彌陀村正蓮寺に於て印南郡義僕旌表式といふもの擧行せられ、縣農會長、郡農會長、郡長、牧師等の貴顯之に臨席し義僕八名に對し左の通り賞與ありたり

賞與等級	主家 村名	主家 氏名	義僕 村名	義僕 氏名
一等	東神吉	長谷川新藏	東神吉	小西大藏
二等	同	堀倉市太郎	同	神吉安藏
同	阿彌陀	土田嘉七郎	阿彌陀	原外吉
同	東神吉	金川右左治	東神吉	金川吉三郎
同	上莊	大西甚一平	上莊	岩本爲吉
三等	阿彌陀	松本吉次郎	阿彌陀	長谷川久吉
同	東志方	石坂善八	東志方	藤原長吉
同	東神吉	坂田直太郎	東神吉	記村松太郎

右に記されたる主家の中、伊藤氏は長者議員、大西氏も亦多額納稅者、長谷川氏は古き大地主、金川氏は高利貸より產を爲せる大地主なりと云ふ、一郡の紳士閥が模範奴隸を旌表して奴隸根性の普及に勉むるを見るべし、其の褒狀の文中『常に身分を守りて多年一日の如く其行爲衆人の模範たるを以て』とあるが如き、善く其の意の存する所を示せり、而して其賞與の金額が一等三圓、二等二圓、三等一圓なりと云ふに至つては、同胞人類を愚弄すること亦實に甚だしからずや

○巡査の月給を增加せよ

とは此頃『萬朝報』が叫べる所にして、

△今日の巡査が九圓以上十五圓といふ俸給(平均十三圓)にして巡査部長が十五圓以上廿五圓以下といふに拘らず實際廿圓以上の月給を下賜さるゝものなく(平均十八圓)往々同じ長家の職工等よりもずつと貧しき生活をなして屢侮辱を凌ぐの事實を知ると云へり、吾人は巡査諸君の境遇に對し實に深厚の同情を寄せざるを得ず、然れども徒らに月給の增加を叫ぶが如きは抑抑末なり、今日悲慘の境遇に在るもの豈に獨り巡査のみならんや、小學教員然り看守然り、車掌然り、小官吏、小事務員皆然り、職工、土方、小作人の如きは更に甚だしきものあり、畢竟『勞働者』と稱する一個の商品として取扱はるゝ人間は、道德人情の範圍內に入ること能はず經濟上の自然の勢ひは迫られて其の價格を限定せらるゝの外なし、即ち商品の價格は總て其の出產費に依るが故に、勞働者の價格も亦た其の出產費(即ち其の生命の維持費)に依りて限定せらる、生命の維持費と云へばカツ〳〵生命を維持するに足るだけの衣食住の費用を意味す、故に實際に於て多少の差異はありと雖も大體に於ては下級勞働者は皆な只だ纔かに生活するだけの費用を給せらるゝに過ぎず、巡査も然り、教員も然り、看守も然り、職工、小作人皆然り、月給增加の叫の如きは、是れ紳士閥の爲にする僞善の聲に非ずんば、無智にして微弱する人情の訴へのみ

○谷中村民の大擧上京

栃木縣谷中村の土地買收に反對せる村民百數十名は、去一日の夜、同村八幡神社の境内に集合し、大擧上京して其筋に請願する所あらんとし、其中八十餘名、簔笠に身を堅め翌二日の午前二時ごろ出發したるが、途中警察官に妨害せられて其意を達するを得ず、總代十名の者のみ纔に上京するを許され、本所中の鄕元町廿番地北村平次方に事務所を置き、米と味噌とを買入れて持久の策を立て、日々內務省に出頭して大臣に面會を求め居れり、吾人は彼等の善く戰ふに對し、多大を敬意なきを得す、因に記す、田中正造翁は先達ての毆打事件は免訴となり、更に今回村民數名と共に上京せしが、下谷警察署の强迫に依て先づ谷中村に退去せり

○青眼白眼

△三井の財產は日露戰爭のお蔭で二倍になつたと云ふ人がある△鐘淵紡績の利益を見ても、陸軍のカキ服の爲に儲けた分だけでも大したものだと云ふ事△東京パツクが、樺太島の形をした鮭を、政友會と進步黨とで引張合をして居る畫を載せたのは、チヨイと善く出來て居た△日英同盟の擴張が出來て、攻守同盟が印度にまで及ぼされるなら、それこそ日本は純粹の番犬になるのだ△芝警察で拷問をしたとて少しばかり新聞が騷ぎ立てた、警察の無上權力を許して置きながら、そればかりの事に異議を申立てたとて何になるものか△郵船會社を主宰せる近藤廉平氏の娘の婿の大久保利武氏が、其の郵船會社を監督し保護する所の管船局長になるといふ說がある、紳士閥の結成いよ〳〵堅きを見よ△東京醫學校は校舍校具一式(生徒附のまゝ)一萬三千餘圓で賣渡された、客附下宿屋、女郎附貸座敷、記者附新聞社の類だ

●東北遊說

木下尚江、山田金一郞の二氏は去一日東京を發して東北遊說の途に上れり、其の第一信は本紙別項に在り、政府は此の遊說に對しても愚かなる壓迫を加ふるものゝ如し、好しさもあらばあれ、政府と戰ふも亦た傳道の一法なり、二氏は凡そ左の日割に從つて進退すべし

△六日　鶴岡　△七日　鶴岡
△八日　福島　△九日　仙臺
△十日　仙臺　△十一日　吉岡
△十二日　未定　△十三日　宇都宮

●赤色旗

秋水洞夫

漢皇赫怒發六師。朔邊大漠任驅馳。
烽火連年丁壯盡。老者轉壑幼者飢。
民生倒懸日旣久。市朝只見盜賊滋。
江河之下勢滔々。世道今日誰能持。
儒生報國文章在。一管大筆任手揮。
流涕曾獻賈生策。慷慨又成屈子辭。
侃諤買禍自古爾。志士何說一身危。
筆端忽觸有司怒。檻車直向城北之。
城北獄現入寒獄。寒威凜烈欲劈肌。
衣衾如鐵食如石。蒲柳弱質何得支。
胃腸壞爛病漸重。偏苦湯藥下咽遲。
此時賴有存一氣。浩然沛然未曾衰。
獄裡豈無一陽復。且喜造化恩光施。
途窮則通勢極變。世路不須歎嶮巇。
聳空石壁高十丈。猶是春風自在吹。
數片落花蝶舞處。千山新綠鵑啼時。
連霖晝寂唯披卷。涼月夜深好吟詩。
飄然忘却物我境。不覺囚中日月移。
屈指一百五十日。刑餘身兼病餘姿。
肉落骨立形如鬼。蹣跚出門一笑奇。
嗚呼此身可繫手可縛。千秋正氣不可羈。
由來活機暗中動。人心所嚮又奚疑。
風雲之會決非遠。山河革命日可期。
君不見露都冬宮風雪夕。王冠碎飛血淋漓。
又不見鐵血宰相虐政日。布衣高揭赤色旗。

●獄中雜唫

秋水

▲銳似刀
塵盡當年意氣豪。問天辭了首空搔。陽春二月獄窓底。刺骨寒威銳似刀。

▲多清福
往事茫々總似煙。鐵扉固鎖絕塵緣。誰知此裡多清福。日出讀書日入眠。

▲反側頻
石爲臥榻鐵爲衾。痩骨難支反側頻。窓外跫音時斷絕。應知獄吏暗窺人。

▲散落花
悄後梁川病更加。春光如夢鬢絲斜。茶煙今日歸由託。空倚鐵欄數落花。

▲人欲仙
一夜涼月五更天。露氣透肌人欲仙。坐愛碧梧高百尺。婆娑影落臥床前。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○支那に於ける社會主義

「遜逸仙氏萬國社會黨本部を訪ふ」

吾人は前號に於ても清國社會黨の狀况を報じたり。然るに今ま又た別に新らしき一報導は來れり。曰く、ドクトル遜逸仙氏は此頃、白耳義ブルッセル市の萬國社會黨本部を訪ひ、支那に於て一の社會黨存すると、其の黨を擧げて萬國社會黨團體に加入せんと欲すると、及び次期の萬國大會には代表者を出席せしむ可きと等を申出で、且つ、支那帝國内に於て既に五十四箇の社會黨新聞を存し、其の運動は決して幼稚なるものに非ざることを陳じたりと。

△遜逸仙氏は猶ほ、支那國を支配する滿州朝廷及び露國を以て、ポーランドを支配する露國朝廷に比し、支那に於る社會黨は先づ此の外來の壓制者を攘ふて支那國をして支那人の有たらしめざる可らず、と稱へり。

△彼は又た、土地制度及び同業組合の狀況に就き論りて曰く、支那の土地制度は共產的の基礎の上に建立せられ、同業組合は此の國の社會組織及び經濟組織に對して頗る重要なる要素となりをるなりと。

△又た彼の言に依れば、支那に於ては未だ多く機械を仕掛け居らず、從つて勞働者の狀態は歐洲諸國の其れに比して甚だ良好なるのみならず、貧富の懸隔も左程著しからず、而して機械の輸入を見ざるも實は勞働組合の頑强なる反抗あるが爲なりと云ふ。

されば同國の社會主義者等は、常に、弊害が機械其のものに附着せるに非ずして、其の私有制度に存するものなることを說き、猶は進んで、勞働者の利益を保護せんと欲せば、共助的組織の下に於て產業を營むに如かずと敎へつゝありと云ふ。嗚呼、世界の到る處、靄然として暗雲の密集し來るを見る。知らず、何の時ぞ澎湃として大空驟雨を濺らす。

○露國革命彙報

日本に對する關係は漸く平和の光明に近かんとしつゝあるに係はらず、國内の騷亂は却つて益々激甚を極む。去月廿八日の電報に曰く

△露國ニシニー、ノヴゴロードに於て、暴民の激烈なる騷亂起りたり
△高架索チフリスの警察署長コワレフに對し爆裂彈を投じたり
△露國ドン河地方のコサック騎隊は、人民の騷亂及同盟罷工の際に、警察勤務に服するとを拒絕したり

更に痛快なる報導は來れり。曰く、政府も亦た之が鎭壓に怠らず。一日の電報に曰く

△最近のモスコー會議に列したるものは皆國事犯を以て來刑さるゝ筈なり

一方に於て斯の如く威力を用ふると同時に、他方に於ては政府自ら改革に着手しつゝあるに似たり。一日の電報に曰く

△聖彼得堡の大臣會議は國民議會に對する選擧方案を可認せり、規定の財產及び納稅資格を有する二十五歲以上のものは何れも被選權を有す、各州及び二十大都會各選擧委員を選擧し●此選擧委員秘密投票を以て該民中より代議士を選擧す、如何なる個人も此選擧委員を投票するを得るにあらず、選擧委員は地方議會に依りて選擧され、地方議會議員は町村會議に依り選擧さるゝものなり

而して更らに三日の電報は曰く

△露帝は本日(一日)國會開設計畫に關する最終の審議を爲す會議に座長たる筈なり、此計畫に依れば十月一日選擧を行ひ十一月一日國會の召集あり、開會中は議事を秘密となし、單に議長は新聞記者の傍聽を許可し、議員は一日一磅の手當を得る筈なり

知らず、此の如き姑息なる緩和策が、果して能く其の效を奏すべきや否や、吾人は只管後日の報導を待つ。

○英國失業者保護法案

昨年來屢々行はれし失業者示威運動が、遂に政府をして、自ら其の保護法案を議會に出さゞる可らざるに至らしめしことは、曩きに本紙の報導せし如し。然るに同國獨立勞働黨の機關新聞『レーボア、リーダー』の最近、報導する所に由れば、同案は一時殆んど流產に終るべしと思はるゝ程の危險に陷りたりしが、頃日、十一票に對する二百二十八票といふ大多數を以て第二讀會を通過せり。是れ、議會に於ては何人も注意せず、何人も議論せざる間に、大勢は何時か潛かに動きて斯の如き結果を齎らせしものなりと云ふ。而して『レーボア、リーダー』は、屢々行いたる全國煽動運動が非常なる影響を議會に及ぼしたることを說き、且つ之を以て勞働黨の首領ケア、ハーデー氏の活動と政略とに依るものなりと稱せり。

○白耳義王位繼承問題

現王レオポルドの嗣子フロンダー伯爵は、目下重病に罹り、到底回復の見込なきよりコヽに繼承權變更の問題は起れり、フロンダー伯爵は到底自己の繼承權を拋棄せざる可らざるに至りしを以て、今より之を其の子フロンダー公に讓らんことを謀りしが、同國社會黨は直ちに之に反對の宣言を發し、且つ嗣子たる資格により、フロンダー伯に對して從來年々四萬弗宛を呈供し來りしが、其の年金權の相續にも反對し猶は大いに反對運動を試みつゝあり。附記す、現王レオポルド老王が國民より取上る年金は實に三千萬弗なりと云ふ。

○ワーキック伯爵夫人招聘せられんとす

英國ワーキック伯爵夫人が熱心に社會主義の宣傳に勉めつゝあることは吾人の屢報導せし所なるが、此頃北米合衆國の社會黨本部は、同夫人に對し、米國社會黨の爲に同國に遊說せられんことを請ひ出でたりと云ふ。之に就き北米ミルウォーキー洲社會黨の機關『社會民主黨報』は曰く、伯爵夫人は『レデー』(貴女)也、されど社會主義運動者たる伯爵夫人は『レデー』たるよりも優れり、然り彼女は唯だ『ウーマン』(婦人)なり、嗚呼此の『ウーマン』の稱、豈に彼の『レデー』の語に對して甚だ誇るべきに非ずや。

○瑞典社會黨の偉大なる活動

吾人は世界の社會主義者と共に、瑞典社會黨に對して大いに祝賀せざる可らざるものあり。そは瑞典社會黨が、近時、自國及び那威間の協同平和の爲に偉大なる活動を爲したれば也。即ち、瑞典の我が同志は、瑞典が、彼の那、瑞聯合を破壞せんとする那威人民の希望を壓服すべく干戈に訴へんとするに强硬なる反對を爲し、而して之が爲に激烈なる煽動を試み、大なる示威運動を首都ストックホルムに於て開催するに至れり。事ある每に榮光を地上に齎らすものは夫れ我が社會黨乎。

○那威國の失業者

那威國中央統計局の統計が示す所に依れば、同國百三十三箇の勞働組合に屬する一萬二百五十二人の組合員中、其の八分三厘は本年一月末日に於て失業し居り、五月の末日に於ては組合員一萬六十四人に減じて其の中九分一厘の失業者あり、更らに之を昨年十一月の統計に見れば、同月末日に於て組合員は一萬八十五人あり、其の中失業者の數は五分三厘の割合なりといふ。要するに失業者の數は漸時其の割合を增しつゝあるを證する也。

○瑞西社會黨の進步

瑞西の社會黨は大人の潤步するが如き有樣を以て進みつゝあり、頃日ベセル府に行はれし州會議員の選擧は社會黨投票の驚くべき增加を現せり。即ち同議會の議員總數は百三十人の内に於て從來二十三名なりし社會黨の議員は、今回十六名の增加を來して三十八名の多きに至れりと云ふ。

○獨乙社會黨の勢力

頃日ユローニュに開かれたる勞働者大會は、實に百二十五萬三千人の勞働者を代表せる、二百十三名の代議員より成れるものなるが、前大會に於ては其代表せられたる勞働者の數、六十八萬一千人に過ぎざりしと云ふ。

○婦人と選擧

和蘭社會黨婦人倶樂部は次期の選擧競爭に婦人を加へんとて無數の宣言書と檄文とを配付して其運動中也

○匈牙利農業勞働者の團結

匈牙利農業勞働者は、頃日、同國社會黨大會に結んで、其大會議を開き、農業勞働者の全國大同盟を建立せんことに決したる由

◎柏木より

幸德生

▲同志諸君、友人諸君よ

▲予は愈々去廿八日から、柏木村なる寓居に病骨を横たへました、なつかしい平民社の閾をまたぐとか、また出來ないのは殘念ですが、兎に角讀するに友あり食ふに魚あり、滿庭の綠陰の眼に快く、一陣の清風の肌に爽やかなのには、深く我身の多幸なるを歡喜して居ます、憚りながら御放念を乞ふ

▲裁判の時に、檢事小峰君は予に向つて、今後は心を改めて忠良な臣民になれと忠告されました、五ヶ月の幽囚は果して予の心を改めさすとが出來たでしやうか、下予の健康だけは僅かに之が爲めに奪はれました、下獄の時の十二貫目(位びなりしと記す)の体量は、今は僅かに十貫三百目となりました、甚だイクヂのない話しです、左れど諸君、一面に於ては予は之が爲めに又多少の新しい智識と經驗とを得ぬでもありませぬ、而して此智識と經驗とは、一として我社會主義の眞理なると、其實行の急務なるとを語らぬものはないのです、若し社會主義を信ずるとが、不忠不良の所爲なりとせば、多謝す、巢鴨監獄、彼は予をして層一層不忠不良の臣民たらしめました、予は今回の幽囚が主義の爲めにも一身の爲めにも、得る所は失ふ所を償ふて十分餘りあるのを、心窃かに信ずるのです

▲予は此多幸なる生活に復つて、此告白を爲すの自由を得ると同時に、第一着に、同志諸君、友人諸君が、過去五ヶ月間予自身と予の家族とに對して與へられたる多大の同情、敎訓、慰藉、援助を感謝せねばなりませぬ、殊に獄中に在て喫煙よりの手紙を貰つた時の嬉しさは實に言語に盡せませんでした、書籍よりも、食事よりも、面會よりも、書信が一番愉快です、終日獄屋して居る囚人には、一片の端書も實に話れの寶玉です、否な給と生命です、また西川君が、今から二ヶ月間居るのですから、どうか續々書信を送つてやつて下さい

▲因みに言ふ、予が獄中で戴いた書信は、總計三百六十一通で、見ることを許された分が二百二十六通、許されないのが百三十五通でした、此『不許』の百三十五通の中百二十五通は、婦人や花卉や景色の美麗な繪端書でした、要するに餘り美麗過ぎるのはイケないらしいです、是等の諸君に對し一々お返事を差出すべき筈ですが、何分まだ執筆が困難ですから、當分御無沙汰致します、惡からず御諒恕を願ふ

▲許可になつた分の中に、リバープール發で、羅甸語に似た横文の端書がありました、無論予には少しも讀めない、縱にして見ても横にして見ても、ドウしても分らぬ、仕方がないから其儘獄吏に預けるのが、如何にも殘念で堪りませんでした、出獄の後に聞けば、それが例のエスペラント語でした(本紙第七號參照)

▲獄中生活の有樣は、去年の今月枯川先生、否な堺利彥君が平民新聞紙上に書いたので十分描き盡されて居ます、予は今更同君の寫眞の妙を得て居るのに敬服しました、但だ一つ違つて居るのは、堺君は手を振て步いて叱られたのが、今年は却つて手を振つて步かねばならぬことになつて居ます、何のことやら(八月二日記)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東北漫遊日記　木下生

八月一日朝五時山田俊輔君を伴うて上野出発東北方に向ふ、一に「宣伝中」など扁書に記せる一隊宇都宮にて下車せる後は車内寂寥、西那須野にて下車する者は塩原行の避暑客なるべく、黒磯にて下車するものは那須温泉に湯治の客ならん、僕等の前に小児を連れたる一人の野婆い大きな牡丹餅を己も食ひ小児にも食はせ居たるが、同じく「お世話になりやした」と厚く礼を言ふて出て行けり、是れは山田君が小児に桃を遣りたりしたればなり、

△下野と岩代の国境なる黒原と云へる山中の停車場にて農夫二人の下車し行くものを見き、母なるは三十の股引に尻端折りて下抜き、娘なるは十八九と見ゆる、娘は當世風に紫の袴を穿きこなしたる、やがて家内に新旧衝突の波を揚ぐるなるべしと見送りぬ、

△松高き中に蕎麦の花白く咲ける邊を過ぎて午後一時過ぐる頃福島に下車、日本聖公会の鯨岡黄吉君に導かれて和久屋と云へるに投宿す、僕等の為に警察の心配は非常なりし由にて「如何なるものかは知らざれど社会主義なぞ云ふものに来て貰つては困る」と云ふ調子、鯨岡君は十数回警察に呼び出されたる末、僅に鯨岡君の宅にて談話会を開くを得ることとなれる由、僕等は深く其の労を感謝せり、

△夜七時半頃談話会を開く、集するもの八十余、何れも年長の人々なり、社会主義問題の挨拶をなし、且つ自分が社会主義の何かるを知らざるものなれば聊か問題を提供して一行の説明を求むとて（一）社会主義者は非国家なりと聞く果して如何（二）社会主義者が非戦争論の理由如何、（三）世界共産とは何の義ぞ（四）社会主義者には人格低きもの多きが如し如何との四問題を出だせり、僕は其の質疑の態度にイタク感激して熱心に卑見を述べんものと心中窃に説明の順序を組成しつゝありき、山田君先づ立ちて一場の演説を始め、資本家主義と亜米利加の歴史を詳述するに至れる所、本題を叙して支那問題が紛乎たる南米列強の本家主義の利益の手段に外ならざるを弁じ、今や其余論の如き其首を振つて厳格に演説の批判に移らんとしたる刹那、門前に立ちて居たる警官ヅカ／＼と上がり来りて中止、解散」を命じたり、例の一喝に何やらせて「解散せよ」の調合は此処にも亦、僕等を苦むるかと思はず腹の立ちぬ、

△談話会は中止に解散し更に十五六名の人々と茶を喫しつゝ、國家、資本家、の要領を聞き、僕は地方生活の實況を質問に及び興深く佳境に入らんとする時巡査又た来りて是れをも解散せよと迫る居合はす人々余りの馬鹿々々しさに呆れて[?]く僕等を慰めて随ひ行けり、挨拶の情[?]錦数十冊を置りぬ、警察署にても一[?]、僕は主義人門一なぞ数冊を購ひ行けり、僕は政府当局が倫も出ざらぬ干渉を試みて一般人士の軽蔑を買ふ勿らんことを切に希望するものなり、此分にては半月の旅行僕或は無言の遊説に終らんも知るべからず、僕等は更に付主側の三四名と夜更くる迄熱心に談論して歸つて眠る、

△此地方は養蚕地にて座の糸の産地なり毎戸店頭にてカラ／＼と糸を挽く、何れも盛なるもの、由、紺の[?]博覧あり、但し、煙草製造所あり、

市中一巡の次手、安積国造神社に詣づ、拝殿に出征軍人の寫真数十枚を陳列す、僕は死者の紀念をなるなりと思ひしに、否な生者の無事を祈るなりと言ふ、元来日本の神は死者の霊を祭れるものなるに、生者の像を祭るは不思議なりと思ひぬ、只是以て戦時に於ける國民心理の變象を知るの資料とすべし、

△夜来雨なり、頗る冷、本日山形へ向ふ。

田園の頽廃　山口孤剣

銀[?]にして、石油なる十九世紀の歴史が[?]一度過る所、[?]の建設と共に[?]器械の發達は、多數の農民を[?]律義の農夫を[?]して、都會に走らしめ、[?]しむるに任せて、田園は荒涼寂寞、觀に堪へずなるに至りぬ、而も[?]命は[?]の如く、[?]の如く襲ひ来りて、山林は格にせられ、湖沼は涸らされ、而して紳士閥の遊獵場は作られぬ、別荘も新築されぬ、嗚呼「神に依りて特に創造されたりし田舎」と詩人クーパーをして歎ぜしめし山紫に水清き處にも「罪悪」と「悲惨」とは横はれるに非ずや、彼の紳士閥が別荘に眉細く[?]艶なる人をして三絃の音に都門の塵を喚び来らしむる時誰か鎌を揮つて増殖の地を耕し、遠く天涯に流落する小作人あるを知らざる乎

[illegible]

ヘンリージョーヂ曰はく「都會の乞食はなほ靴を有つ、靴すら有つ能はざる農民は稽むべからずや」と、學校の建築何する者ぞ、彼等は教育の恩恵に浴せず、交通機關の發達何する者ぞ、彼等は旅行の自由を有せず、美術音樂の進歩何する者ぞ、彼等は娯樂の餘暇に乏し、……

……擲れむことし、多數の農民が「都會」なる偉大なる文字に眩惑して、一枚の赤毛布に旅愁をつゝみて、小都會の停車場にさゝやかなる行李を埋する時、幾十里の彼方煙突林立する處「資本家」なる蒼鳥が鋭き爪を伸べて利きて、彼等を喚はんとしつゝあるを自覺せざる也、見よ農商務省の統計は我國に於て三萬八千二百人の農民は年々貧苦に迫られて、鋤鍬を擲ち都會や外國に出稼ぎしつゝあるを示しつゝあるに非ずや、忠君愛國を説くに任せ、田園の頽廃に於ける生は、年を經る毎に減少しつゝあるぞよ、昔者ゴールドスミス「廢村行」に歎じて曰く

[illegible]

田園なる手足は冷却して、都會なる頭腦は忠熱に充たさる、社會は今「充血患者」として煩悶せるにあらずや

幸徳君出迎の記　堺生

△七月廿八日午前四時頃、予[illegible]

[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會[illegible]

輕井澤論（一）

上田[illegible]外

△緒言▽

所謂高貴なる紳士[illegible]の男女が[illegible]として、[illegible]多の哀れなる勞働者を[illegible]し置き、[illegible]東京の夏は[illegible]ると稱して、[illegible]行くは[illegible]箱根、日光、何と[illegible]成る可く[illegible][illegible]ふ所を[illegible]血より[illegible][illegible]如く[illegible][illegible]し[illegible]の夢[illegible][illegible]市[illegible]久し[illegible]と[illegible]し[illegible]し[illegible]一度眼を注ぐ[illegible]余[illegible]見[illegible]故に[illegible]る[illegible]もの。

△[illegible]▽

[illegible]

越後路は[illegible]州の[illegible]なり、東門也、之に反し、人[illegible]若し[illegible]女の[illegible]を載せて[illegible]ふ[illegible]所[illegible]と[illegible]時[illegible]欲[illegible]は其[illegible]東京[illegible]の[illegible]道よ[illegible]人[illegible]來らざる可らず、[illegible]門なり、是れよりして[illegible]輕井[illegible]と[illegible]其[illegible]笑[illegible]以て人[illegible]なり、而して余[illegible]今[illegible]とする所[illegible]東方の一[illegible]門[illegible]役[illegible]等[illegible]一村[illegible]なり、[illegible]の如[illegible]小商[illegible]係れる者に[illegible]也

△位置と[illegible]▽

[illegible]海拔八千[illegible]尺[illegible]春[illegible]高原[illegible]す地なれ[illegible]如く[illegible]光を[illegible]て水[illegible]る[illegible]其[illegible]余[illegible]見て[illegible]吹[illegible]可[illegible]あり。[illegible]

[illegible]

罪ん[illegible]に鐵道が[illegible]避暑客を運ぶ時にて有要なると アプト式[illegible]車を[illegible]ふる[illegible]に存在する のみ、輕井澤とは[illegible]輕井澤と此新 輕井澤とを合して一村となせる者にして 舊[illegible]地として知らる丶[illegible]井澤と[illegible]昔[illegible]外 地今の[illegible]近[illegible]一[illegible]を云ふなり[illegible]信 人[illegible]近[illegible]林木[illegible]流水を[illegible]して[illegible]其景色一 輕井澤の戸數と同[illegible]數[illegible]し、 [illegible]の[illegible]見るに[illegible]たり。 輕井澤[illegible]四面[illegible]は大[illegible]にして、何ん [illegible]なる[illegible]たる景色にて、[illegible]方の [illegible]中にあり、[illegible]を 以[illegible]、高原[illegible]流水清く、[illegible] [illegible]に立て[illegible]秋の如く、下[illegible] 衣[illegible]て[illegible]、[illegible]色[illegible]光 と[illegible]秋七草[illegible]、[illegible]、[illegible] [illegible]ると見[illegible]面[illegible] [illegible]小[illegible]中に[illegible]る也。

川柳會心

[illegible]　讀　生　選

よく見れば手の届くだけ謎[illegible]
てん〳〵に好い女房を持つ氣なり
[illegible]のきなさい今日や明日で[illegible]
蝿[illegible]逃げたのに[illegible]手[illegible]開させ
寐をびれた夜は家を建て藏を建てし
お内儀が立つと錢の落ちる音
かくし引出をあけ[illegible]よのとする
叱られて今朝出たと母[illegible]がり
物さして[illegible]の蝿を追つてやり
番頭は末期に手のあることを言ひ
行つかいさ馬鹿をなしいと内儀[illegible]る
ぬれ佛おかたが跡でたゝくなり
提灯をの丶字に[illegible]はず來たまり
ふんどし[illegible]大小をさすゆりかへし
貸さぬやつ[illegible]が[illegible]しい[illegible]
御[illegible]に女房[illegible]氣なり
叱られた[illegible]寄りか丶り
首く丶り富の札など持つて居る
そら[illegible]人[illegible]數に[illegible]はれ
御[illegible]に人[illegible]供のうつくしさ
[illegible]人よばりされ
[illegible]カ丶アと[illegible]ども
はねられて[illegible]立ち
一歩やらたは[illegible]アなり
中[illegible]り元い女居いりになり
云ひこめたさう[illegible]明かれる
[illegible]後[illegible]抱き
[illegible]子[illegible]おろして居
若後家の不[illegible]に手はまよひ
子い[illegible]冷習日夫婦喧嘩なり
化けさうないでもよしかと飛を出し
姑[illegible]らさに死ぬやうに仲人いひ
採が出來たら喰ひさうな鰶アなり
あのら[illegible]たやうに新[illegible]する
[illegible]手取りか[illegible]る一人もの
人[illegible]かみさ[illegible]泣になぶられる
見る[illegible]ないと枚數でねんねさせ
新世帶[illegible]が來て[illegible]をつり

東西南北より

▲[illegible]●●●● [illegible]

▲[illegible]●●●●●●●● [illegible]

▲[illegible]●●●●●● [illegible]

▲[illegible]●●●● [illegible]

▲[illegible] [illegible]

▲小[illegible]●●●● [illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎巣鴨だより

(西川光次郎君より 七月三十日發)

○第五信、今日から數へて五十八日目には出られるのです、秋水兄が無事に出る事を得て何よりです、申す迄もないが十分保養を望む○さて僕幸ひに頑健依然たりで、此の月も相變らず讀書に耽りました、此の月は四五日しか暑いと思ふ日はありませぬでした、けれども來月は暑さの爲めに多少勉強を妨げらるゝことでせう○其の暑い日に、せめてもと青空白雲仰ぎつゝ、青海原の白波を偲んだり、富士の上十三州を目の下に夏を忘れたこともあつたがなど、思つたり何んかしました○日の中は別に出たいとも何んとも思ひませぬが、夜、殊に月明の夜は、散歩がしたくてなりませぬ、明月や出歩きのならぬ此の身かななどと、切りに我を憐むの情に堪へませぬ○去る十日頃より獄の庭に虫の聲々聞え初めて、其の聲々夜毎に増へ、今ではナカ〳〵盛んです、虫の聲々に誘はれて夢路にたどり入るなんて有樂町では出來ぬ贅澤でしよう○社中の諸君は相變らず御壯健御奮闘のことと存じて居ります、……獨乙の辭書と獨乙讀本類(何んでも宜しい)差入れて下さい、頼みます(以下私事に渡るゆゑ略す)

◎チラシの色々

左の四種のチラシ御入用の方は表題を指定して御注文あれ、御送金は郵便切手にて宜し、實費一枚約一厘と郵税とを見積り、相當の枚數を計算して直ちに發送いたします

△社會主義の樹　△社會主義とはドンナ者

△社會主義と女子　△社會主義の歌(譜入)

▲外に配布用として直言の舊號を多數に寄せらるゝ諸君には無代價にて進呈す、郵送用の切手を封入して御申込あれ

◎雑誌管見

▲心のいたみ(田岡嶺雲氏うろこ雲) 戀は慰藉なりといふ莫れ、予が戀はつれに失敗に終れり、悲痛に終れり、初戀の名も知らぬ人の清き高き俤は今に猶予が胸に刻まれ、父を知らぬ哀れなる吾が見は、父たらぬ人を父として顧命なる其母の胸に眠れり、色に沈湎すといはゞいへ、僞りの戀にも予は眞情を以て對す、僞るは彼の罪なり、僞らるゝは予の罪にあらず、僞らるゝを愚なりと人は嗤ふとも、予は寧ろ僞らるゝも見ゝ女の覺を僞るに忍びず、予が經驗せる戀は毎に苦痛なり、艱悶なり△是れ嶺雲君が半面の眞影なり

▲外交家の思慮すべき所(日本人) 外交の難さは戰敗者として談判するより難きは莫し、……戰勝國に在つては此と違ひ、難くと雖かざると一に我が權内にありて、他は屈伏するの頗る容易なるを見るべく此際特に注意すべきは唯だ第三國の態度如何といふのみ、……今日國と國との間に事端の啓くるある、一に其の數國の權利及び利益の衝突に由來すとすべく、謂ゆる權利問題は即ち總べての問題にして、他に如何なる事情の存する共、關係國の利權に影響せざる以上、毫も懸念するを要せず、……我國の露國と戰ひて世界の同情多く我に傾けるは、……註する所の露國の爲す所の我が爲す所よりも一層多く列國の利權を犯かす恐れありしに因る△外交の現狀此の如きは何人も知悉せる所なり、吾人は唯だ之を正義人道の主戰論者たる雪嶺氏に依つて聽けるを奇となすのみ

▲絶對的自由(無我の愛第四號) 人々よ、乞ふ、活眼を開いて、宇宙を達觀せよ、靈の天空を飛ぶや、自由也、花の曠野に咲くや、自由也、虫の草に遊ぶ、魚の水に游ぶ、何物か自由ならざる、眞面目のある所、必ず眞理あり、眞理のある所、必ず愛あり、愛のある所、必ず自由あり魚は水を愛し、虫は草を愛し、花は曠野を愛し、靈は天空を愛す、是を以て能く彼が如く自由なる也、人は自然の一部也、否、自然の粋なるもの也、然るは、日夜齷々齪々、身勞し、心苦しむもの、「」に只、我執我利、僞作造作のあるあれば也、一に只、自然無爲の愛を自覺せざれば也△例もながら說くところ力あり、生命に入れる者に非ずんば能く是あるを得んや、希くは時に此の絶對的無我愛をして相對的に發動せしむるの方便を講ぜられんことを

▲電話の喩(ときのこゑ) 神樣に祈禱するといふことは、譬へば電話をかける樣なものであります、電話は相手の顔を見ないけれども、向ふで聞て居ることを信用して話をしかくる者である、其如く私しどもは神樣のお姿を見ないけれ共、眞心からの祈を聞取り給ふことを信仰して祈禱する者であり升、電話をかけるには、他の聲に妨げられぬ樣、成べくは別室にて之を行ふ者である、其如く祈は世の中のことに心を奪はれぬ樣、殊に密室にて神樣に申上ることを好しとする者である△極めて通俗なる譬喩なりと雖ども、祈禱の妙理を說き得たるに似たり、

▲續覺書(新佛教、在滿洲皓林氏) 我は實際の戰場に臨んで始めて戰爭の功德を知つた、知つたと共に斷々非戰爭主義となつた、社會主義が斷々強烈になつた、……日本人は動もすれば此の腰間神州の一刀を振て、見事にロスの首を落して見たいなど、威張るものがある、……が僕は斷じて御謝りする、刀はよく切れざる可らず、切れるは刀の本然であるが、僕は僕の寧刀に、一度も血らざるを以て僕の名譽として居る……理論として僕は社會主義と云ふものが、斷々必要なことを知つてきたが、戰爭が思つたよりも愉快なものたるを知つた、直情徑行の性を養つてくれた、天眞爛漫の愛の發揮を教へてくれた△直情徑行の性を養ひ、天眞爛漫の愛を發揮する、豈に特に悲慘なる戰爭に待つを要せんや、

▲挿畫の說明　此畫は米國なる有島武郎氏がミセス、ブラウニングの小說中から意匠を取て畫いた者で、亡くなつた小供を葬むる繪であります

◎遍く三等郵便局員に檄す

一郵便局員　宮崎生

△噫、吾が親愛なる三等郵便局事務員諸君よ、吾はここに兄等に向つて丕ひに進むる處有らんと欲する者である。

△見よ彼の富豪の青年男女を、彼等は未だ曾て牛屋の食をだに自ら做くる能はずして而も尚且つ日夜學窓の下に學びつゝ在るでは有りませぬか。等しく吾等も是れ青年也、然るに其の目的に向つて進むこと能はずして却つて、砕々として日夜働らかざるを得ないでは有りませぬか、嗚是れ何たる恨事ぞや、抑も何の爲めで有るか、他ではない不幸にして家累の壓下し來れるが爲めに遂に其の衣食の資を得なければならないが爲めであります。

△然らば吾等は此の三等郵便局員として善く其の一家の糊を立て得るだけの俸給を得ておりますか、どうか諸君は則ちお答へになるでせう、決して得てはゐないと。然り一ヶ月九圓や十圓の薄給でどうして一家の暮しが立つて行けませう乎。

△陰鬱不快なる局舍の裡、頑冥不靈なる局長の許に、一日十七八時間乃至二十四時間の過勞に苦まればならぬ。然るに家に歸つては則ち仰いで以て父母を養ふに足らず、俯して以て一册の書籍をだに覓むる能はず、加ふるに、運動不足の結果として胃弱となり、神經衰弱となり、竟には顔色蒼然として青年の活氣靈に那の處にか消去らんとするので有る、噫、吾々の窮狀實に此の如く然り、吾々青年の能く堪へ得る處で有ませうか。

△然るに顧つて其局長の如何を觀るに、是れ厥の三等局が受負事業なるが故に、彼は絶對の權力を以て吾々事務員を虐使酷役なし、而して自らは毫も勞するなくして皆巨萬の富を攫んでゐるで有りませぬか、嗟吁、一將功成つて萬骨枯るとは實に此の事だ、吾々は是れ日夜汲々として以て局長一人の腹を肥してやるのではありませぬか。

△人有り或は云はん、三等郵便員の如き者は是れ所謂る庸劣取るに足らざる碌々の徒而已矣、宜しく其分に安すべしと。

△諸君どうでせうか、もし今我國各地方の吾々三等局事務員が爰に一大同盟罷工を決行したとせんに、此の一日も欠くべからざる處の交通事業は其れ誰れの手に依つて運轉されませうか、社會は非常なる不便に陷る事是れ火を觀るよりも炳かで有ります、然らば則ち吾等の社會に必要なる是れナカ〳〵一ヶ月九圓や十圓の價値では有りますまい。

△故に私は切に勸めます、則ち諸君社會主義にお出でなさいと、吾々の苦境を一變する盖し疑ひに非るべしと思ひます、則ち現今個人主義我利我利主義の社會を根本的に覆滅なし、而して土地と資本と生産機關の公有の下に萬人平等に自由幸福に成ることが出來やうと思ひます。

△諸君果してどうお考になりますか、猶し夫れ今日の苦境に甘んずるならば則ち止む、苟も然らずんば則ち吾は敢て茲に諸君に社會主義に來らん事を進むる次第で有ります。

堺利彦著　(來る十八日發行)

半生の墓

定價金二十五錢、郵税を要せず

▲亡妻美知子一週忌の紀念として此の書を發行す▲此の書は予の半生の墓にして又美知子の墓也▲予は石の墓を作らずして、玆に此紙の墓を作る(著者の題言)

●本書目次

●予の半生●哀史梗概●不知所往列傳●永久の滿月●僕にもオバアさんが欲しい●小供の導き●細君の說法●獄中生活●風流乞食●一人の要する土地幾許(トルストイ)●別莊拜見の記●其他數篇

發行所　東京市根津宮永町卅六　平民書房

取次所　東京市麹町區有樂町三ノ一　平民社

名士肖像　平民社繪端書

マルクス(近世社會主義の祖)
エンゲルス(近世社會主義の祖)
ラサール(獨逸社會民主黨創設者)
ベーベル(獨逸社會民主黨首領)
トルストイ(露國非戰主義の老偉)
クロポトキン(無政府黨首領)

一組六枚定價十錢　郵税五組まで二錢

名士肖像　平民社繪端書

◎小品千題　智識と趣味　(定價卅五錢)

現代最新の智識と、滑稽趣味の[illegible]とを、小品千題の中に併せ收めて、正に是れ讀書消閑の好伴侶たり△珍釉美本、[illegible]の愛玩に適す

△發行所　東京根津宮永町卅六　平民書房

△取次所　東京有樂町三ノ一　平民社

同志の運動

▲東北傳道行商日記（九）（福島縣白河町より）　荒畑勝三

▲七月廿四日、晴、桐巡査と共に足尾を出で、日光に向ふ中禪寺から足尾は三里の山道を婦人勞働者が重い材木を背負ふて越へて來る、中禪寺に達し華嚴瀧を見て夕暮日光町に至り旅舍に投じた、吁々日光と足尾相去る僅かに三里のみ然も宛で地獄と天國との差である見よ陰府の如き鑛坑に下り終日孜々として勞働しつゝ尚ほ「南京米さへ喰ひかねる」と唄ふ坑夫を又見よ水清く風涼しき湖邊に別業を此れ事とする猿の如き紳士や豚の如き貴夫人令孃を、勞働者諸君斯くても尚ほ覺めざる乎、▲廿五日、雨、昨夜は生憎警察の眞向ひの旅舍に泊つたので巡査は絶へず樣子を聞きに來る、今朝起きると注意する要件あり出頭すべしといふ達紙が來て居るので宿の主婦大に心配して曰く「アナタは華嚴瀧へ御出でになつたのではありませんか」と—日光—書生體の少年—警察の注意—成程華嚴行とはうまく考へたと不思抱腹絶倒した、警察より皇孫が滯在中だから萬事注意せよと命ぜらる、清く美くしき日光山も俗惡なる案内者や茶屋の爲にすつかり俗化せられて居る自分は獨り暗き老松の樹陰より金碧燦爛として三百年の永き星霜を朽ちず壞れず巍然として聳へ立てる殿堂を望むで勞働の偉大なる力に驚嘆した、夕方大澤町に泊り車を曳いて宇都宮に至る、▲廿六日、曇、九時巡査と共に市中に行商に出で、午后四時迄歩るいて漸く經濟進化論一冊賣つて、小幡町に有限責任購買組合が設けられてあるので訪問し專務理事赤間氏に面會して三組合が本社石川旭山兄の消費組合の話に依て設立せられたことを聞き愉快實に禁ずる能はなかつた、組合は本年四月の設立にかゝり組合員百六十餘名資本總額三千餘圓成績頗る良好であるとのことである、▲廿七日、雨、市中に行商しつゝ宇都宮を立つ、氏家町で行商に寄つた家では歸省中の青年が居ると宮地の警察から歸省中の學生が社會主義の檄など配付する者があるが其樣な事は斷じてしてはならぬと注意された事を語られた喜連川に至りて泊る、▲廿八日、晴、今日は東京では幸德先生が出獄せられたであらふと思ふて勇むで出立した、銀掛村の渡船場の河原で大雨の中で車諸共坂を轉がり落ち大きな石に腦を打ち車に背を打たれて絶息して了ふた、▲廿九日、晴、昨日氣絶してから渡船場の船頭の家が宿屋なので其處で介抱を受けた、今日は晝迄休むで再び坂また坂を越して芦野町に至り、宿に車を預けて附近の村に讀者を訪ひ幸德氏出獄紀念號を讀み鈴木秀男君戰死の報を見て胸は張り裂くる計りであつた、吁々橫濱曙會の前年平民社を起したのは君と僕とであつたのに、君今や乃ち亡し、吁々我が兄を殺したる政府と軍隊と紳士閥よ、汝等鈴木兄の肉體を殺し得るも其の精神を滅し得る乎、夜宿に歸つて君の寫眞を抱いて繰返し彼れが生前の事共思ふては泣いた、吁々此の慾惡誰れか察してくれやう、▲三十日、晴、黒田原に讀者藤田姉を訪ふたが不在で面會せず、駐在所の巡査に本を賣つて晝飯の馳走になつた、午後二時頃出發福島縣白河町に入り宿舍に投ず吁々我が手と足とは我れと車とを福島縣に運べ共我が心は遠く去て鈴木兄の許に逝ふて居る、▲此の一週日に於て二十一冊の社會主義書類を賣つた、

▲神川村讀者會（信州）

農事繁忙を極める爲め久しく中絶せし讀者會を七月十二日午後二時より〻井正君宅に開會す、會する者僅かに三名、然れども此會が、如何に將來に於て讀者會及び勞働組合を活動せしむるの動機たるかは今後の事實を以て證明し得べき也、吾人は直言二十五號、世界之新聞欄、伊國共働同盟の開闢計劃に感奮興起せり（山邊清太郎）

▲横濱社會主義演說會（第七回）

橫濱曙會員は、去る卅日夜、神奈川亭に於て社會主義演說會を開きたり、當夜雨天の爲め聽衆僅か四十餘名なりし、辯士は高畑、田中、大和田、服部の諸氏にして、服部氏中止されたるのみにて無事解散したるは午後十時半なりき

▲横濱社會主義演說會豫告

來る八月十三日（日曜日）午後七時半より、若竹町金岡（龜讓席）に於て社會主義演說會を開く、附近所在の讀者諸君奮て來會あれ

▲神戸平民俱樂部例會

△時　八月十二日（第二土曜日）午後七時
△所　兵庫東出町一、一六五小松方
△來會何人にても隨意

▲社會主義學術演說會（紀伊新宮町）

七月二十九日夜中の町教會堂に開會し、小生は「慈善主義の缺陷」及び「婦人問題の解決」につき演說し、元東京誠友會員なりし坪井南邨氏は自己の境遇より社會主義を信ずるに至りし經歷を述べられたり、來會者大凡四十人（大石誠之助）

▲秋田縣の同士に告ぐ

夏季休暇を利用して、八月中旬太平山下岩見村に於て秋田平民會を組織し、直言愛讀會平民新聞追弔會を開かんとす、希くは、同志の諸君萬障を排して御來會あらんことを（秋田縣河邊岩見三內村、加茂谷　若松）

●故鈴木秀男君追悼會

吾徒は不幸なる社會主義者故鈴木秀男君の追悼會を開きて彼れが生前を偲び彼れが殘せし小さき事蹟を偲ばんと欲す、有志等幸いに來會あらんことを乞ふ

△八月六日（日曜）午後四時より
△橫濱市山下町海岸教會堂に於て
△會費不要　△曙會發起

●新刊紹介

▲國家論（遠藤隆吉著）著者が其の『社會學の見點より國家を見たる』もの即ち是なり、別に新しき議論と用意とあるに非ず、日本人の聞き飽きたる事を殊更にことぐしく書き立てたりといふの外に特長も無きが如し、吾人は今更ら理窟の批評を加ふるの愚なるを知る、唯だ本書の特長を擧ぐれば、『吾人は日本の天皇が君臨し給ふことは天地開闢以來の習慣にして、正義の觀念に寸毫も抵觸することなきを感知す』と言ひて、さて直ちに筆を續けて『然れども支那の天子を以て斯く迄遙かに正義の對象となさゞるなり』と論ずる如き理を推さずして御都合好きに從ふの點にあらん歟、又た『交通機關完全なれば社會の一部に謀叛者あるも其の計の熟せざるに主權者は兵を派して之を討伐すべし』といひながら、『覇者に至りては兵事に因りて天下を服從する者、吾人は之に權威の光りを發見する能はざるなり』と論ずる如き、前後撞着矛盾の論を憚らず主張するの點にあらん歟、要するに本書は世の高天原的の國家論が如何に御都合の好き議論なるか、如何に矛盾撞着多きものなるかを天下公衆に廣告すべく最も有力なるの書と言ふべき也（價二十錢本鄕四丁目文明堂）

▲禪海の一波（寶水氏著）『本書は、禪宗の見識をもつて、基督教の眞髓を摘發したるもの也』とに著者が序の全文なり、奇警卓拔なる所多しと言ふ程に非ざるも、復た佛耶兩教の心的生活を對照して趣味の味ふべきもの無きに非ず、例へば『心の清き者は福なり、其人は神を見ることを得べければ也』に對して『淨極まりて光通達す』、『野の百合花は如何して長きかを想へ』に對して『梧桐一葉包宇宙』、『神、われらと偕に在り』に對して『人と神、二あるにあらず、しかも、人は人、神は神』と書せし如き少しく面白し、要するに、宗教は文字に非ず、唯だ靈の愛に依りて天地生々の氣を呼吸することを得ば足る也（價十錢本鄕四丁目文明堂發行）

▲勞働（十八號）社會改良主義の機關雜誌なり、小林鼓水といふ人之を主幹するものなる由、『社會改良主義は私有的經濟組織の下に資本勞働の調和を主張す』と稱す、所謂砂糖水主義なり、是れも前の國家論と同じく御都合好き議論なり、似而非なる改良論を振り回はして資本家の巾着を狙ふべく最も都合好き機關雜誌なり、勞働者の宜しく眉に唾して警戒すべき雜誌なり（府下南品川利田新地、勞働雜誌社）

△教界時事（六〇）　麴町區上二番町其社
△倉敷日曜講演（十四）　備中倉敷本町林源十郎
△婦女新聞（二七三）　牛込東五軒町其社
△日本人（四一五）　神田雉子町政教社
△求道（二の六）　本鄕森川町其發行所
△工業の花（廿一）　大阪東區瓦町大日本職工教育會

●運動基金募集

七月二十三日より八月三日迄の受付左の如し

△金壹圓	中國	無名氏
△金壹圓		一勞働者
△金十五錢	本鄕	無名氏
△金五圓		失名氏
△金壹圓	米國	早川氏
△金三十五錢	函館	松居音五郎氏
△金壹圓	釧路	宮本繁次郎氏
△金五圓	長崎	渡邊丈子氏
△金二十錢	群馬	阿部米太郎氏
△金二十錢		竹內氏
△金壹圓二十錢	神田	藤田四郎氏
△金五圓		赤羽一氏
△金壹圓（第十一回）	神田	無名氏
△金壹圓（第十二回）		同上
△金五錢	茨城	木村傳左衞門氏
△金五十錢	相州	乾治三郎氏
△金五十錢	小樽	大瀧由太郎氏
△金五十錢	北總	平民俱樂部
△金五十四錢（第四回）	阿波	柳尾嘉代太郎氏
△金三十錢（第一回）		AT生
△金壹圓	紀州	無名氏
△金壹圓		同志共勵會
△金貳圓	神奈川	淺見市次郎氏
△金四十錢	橫濱	堀內清吉氏
△金五十錢	本鄕	關利太郎氏
△金壹圓		無名氏
△金五圓	平民社	堺利彥氏
△金五圓	平民社	西川光次郎氏
△金壹圓	平民社	延岡爲子氏
△金壹圓		延岡節子氏

計金四十三圓〇三錢也

●木下尚江君小說

小說 良人の自白

上篇 第四版も亦賣盡し今回更に第五版發行せり
中篇 初版再版共賣切れ今回更に第三版發行せり
（定價、各冊二十五錢、郵稅不要）

小說 火の柱

第八版を發行し『良人の自白』と相並びて文壇を橫行す▲價同

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社

平民文庫出版廣告 ▲▲▲郵稅不要▲▲▲

●社會主義入門　平民社同人編　定價十錢
●消費組合の話　石川旭山著　定價十二錢
●地上の理想國 瑞西　安部磯雄著　定價十五錢
●社會民主黨建設者 ラサール　幸德秋水著　定價十五錢
●土地國有論　西川光次郎著　定價十錢
●富の壓制　西川光次郎著　定價十錢
●經濟進化論　田添鐵二著　定價十五錢
●小說 火の柱　木下尚江著　定價卅五錢
●小說 良人の自白（上篇）　木下尚江著　定價卅五錢
●小說 良人の自白（中篇）　木下尚江著　定價卅五錢
●革命婦人　平民社同人編　定價十二錢

五錢本之部　一部價五錢郵稅二錢 但二部以上郵稅不要

●百年後の新社會　堺枯川抄譯
●理想鄉　堺枯川抄譯
●ジョン・バーンス　西川光次郎著

書籍取次販賣 ▲▲▲郵稅無料▲▲▲

●社會問題解釋法（安部磯雄著）　價一圓廿錢
●廿世紀之怪物 帝國主義（幸德秋水著）　價廿五錢
●社會主義神髓（幸德秋水著）　品切中
●小說 勞働問題（堺利彥譯）　價卅五錢
●社會主義概評（島田三郎著）　價三十錢
●社會黨（西川光次郎著）　價十五錢
●產業組合手引（森近運平編）　價二十錢
●青年と生存競爭（安藤見毛喜著）　價二十錢
●家庭の新風味（堺利彥著）　價壹圓
●家庭夜話（同上）　價壹圓
●枯川隨筆（同上）　價二十錢
●我家の犬猫（同上）　價八錢
●トルストイ翁 日露戰爭論（平民社譯）　價八錢
●小品千題 智識と趣味（斯波貞吉編）　價三十五錢

注文所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社
注文所 大阪市中の島宗是町田簑橋南詰 大阪平民社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本書籍株式會社 第貳回決算報告

貸借對照表

負債之部

資本金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定積立金	八、七〇七・七七四
別途積立金	二一、七六九・四三六
取引先保證金	七七、三七七・〇〇〇
身元保證金	三、三六四・四九〇
仕拂手形勘定	六三、六二五・七二〇
未拂金勘定	五四、六二二・四〇一
假受勘定	一二、七六三・〇三四
未拂配當金	四八・一二五
前期繰越金	四、八〇九・九八五
當期利益金	一〇四、一八三・七四一
計	一、三五一、二七一・七〇六

資産之部

未拂込資本金	七五〇、〇〇〇・〇〇〇
營業用地所建物	六〇、〇〇〇・〇〇〇
有價證券	一三三、五六五・〇〇〇
商品勘定	七四、五八七・三〇四
取引先勘定	五五、四〇八・一一五
[illegible]製品	八三、九五一・四一二
受取手形勘定	五、五六三・五六〇
假拂勘定	六、一二五・二九八
銀行勘定	一七五、三一三・三七〇
現金勘定	六、七五七・六四七
計	一、三五一、二七一・七〇六

利益金分配

當期利益金	一〇四、一八三・七四一
前期繰越金	四、八〇九・九八五
計	一〇八、九九三・七二六
内	
法定積立金	六、二九二・二二六
別途積立金	三八、二三〇・五六四
賞與金	一〇、四一八・三七四
販賣店割戻金	一〇、四一八・三七四
株主配當金(年一割五分)	三七、五〇〇・〇〇〇
後期繰越金	六、一三四・一八八
計	一〇八、九九三・七二六

東京市日本橋區新右衛門町十六番地
日本書籍株式會社

取締役社長 大橋新太郎
常務取締役 大倉保五郎
取締役 龜井忠一
同 水野慶次郎
同 吉岡平助
同 大柴四郎
支配人 林平次郎
監査役 江草斧太郎
同 長崎次郎
同 西澤喜太郎
右調査候處相違無之候也

監査役任期滿了ニ付改選ノ處左ノ通當選ス
江草斧太郎
覺張治平

釋宗演禪師評 海老名彈正師評 空水著
禪海の一波
▲定價拾錢◎郵税不要▼
著者曰く「本書は、禪宗の見識をもつて、基督教の眞髓を摘出したるものなり」
海老名彈正先生曰く「是は、精神的耶佛の對照近頃の珍本、道味も中々深い」。
發行所 東京本郷四丁目五 文明堂

◉齒科治療 自午前八時至午後六時◉
神田區須田町二十六番地
齒科醫 吉瀬才二郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

月刊スケッチ 第五號 八月十日發行(毎月一回十日發行)
定價 一本號特別 一部參拾錢 郵税壹錢五厘
口繪(山祠)(水彩畫厚色版)岡田三郎助◎雨の日(ペン畫)三宅克己◎富士先達(鉛筆畫)中澤弘光◎神奈川寫生(鉛筆畫)石井柏亭◎夕ぐれ(石版)橋本邦助(スケッチ畫)岡田、岡野、小林、戸原、丸山、フイスラー、グレヴアン、ニコルソン諸氏
文壇は浩々歌客、泣菫、湖山、林外、弔花、泡鳴、沼山、醉茗、木兒、孤島、山風、露京、星郊、梅卓、桂華、淡翠、斬雲、白羊、星湖、諸氏の長詩短文
◎岩村透氏選「名匠遺訓」は同氏が博く泰西藝術書を渉漁して抜萃せる者、苟も藝術に志あるものは熟讀すべし◎三宅克己氏の富士紀行◎中澤弘光氏畫學講話◎在米畫家某氏の苦學消息◎漫録其他例に依て趣味横溢
夏期附録
○三宅克己氏「利根の曉風」繪葉書(木版凡三十度摺)○長原孝太郎氏戯畫○フイスラー、メンプスの畫稿
◎中村春雨、蒲原有明、三木天遊、梅澤和軒諸氏の詩文
○坂井義三郎氏フイッスラー評傳
△表紙は中澤弘光畫○體裁は菊版堅形に改む
發行所 本郷區元町一の十六 スケッチ會

ライオンはみがき 赤鑵入
體裁優美にして能く香氣を保ち頗る携帶に便也

家庭雜誌 第三卷第三號(八月二日發行)
特色 △健全の思想△改革の氣象△親切の教訓△通俗の説明▲編輯に大西村渚山之に當り堺利彦之を補助す
◉日本婦人の新使命(安部磯雄)▲客の待遇▲見舞日記▲觀戰▲交際の事
◉家庭隨感録
◉花守日記▲花守の宿▲孫子褒さ▲宿の庭▲二葉の花
◉學生情死問題餘論
◉星の話(飛鳥の神話と美しき物語)
◉結婚と幸福(米國ノ某氏著)
◉料理(チキンフライスと林檎菓子)
◉田舎の小家庭
◉此他▲日本の家族制度▲料理問題◉お話材料等
定價 ▲一冊六錢▲六冊三十二錢▲十二冊(一年分)六十錢▲郵税は當分持社
發行所 東京芝區新堀町卅 由分社

活版印刷
東京築地 株式會社 **國光社**
電話新橋 二六九三番
特電話新橋 八八番

傳染病研究所 養生園 東京病院 其他各病院 御用
專賣特許 **アルボース**
防臭と消毒の最良劑なり固形としてアルボース石鹸と稱するものあり日常廣く使用せられよ▲定價原液一斤入金卅五錢、通常液一斤入金拾三錢、同卅五斤入金二圓▲石鹸大形金拾三錢、小形金八錢
東京深川區東扇橋町五番地 扇橋製藥株式會社
▲賣捌所 全國各藥店及び小間物店

金鵄ミルク
世界第貳等

東京市大傳馬町一丁目
逸見山陽堂
電話(浪花)三三五

外科皮膚病 梅毒 痳病 痔 外科的 婦人科 尿道器 外科的療法
診察午前八時より十一時まで
東京新橋際出雲橋 **加藤病院**
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 横濱神奈川(毎火木土曜自午後三時至六時)小田原海岸(毎日曜午前中)

利息改正(七月廿一日より)
◉定期預金 六ヶ月以上 年六分
◉當座預金 日歩 一錢
◉特別當座 日歩 一錢四厘
◉貯蓄預金 年 五分四毛
日本橋區呉服町
株式會社 **東海銀行**
堀江町支店 京橋支店
本郷支店 三田支店
赤坂支店 淺草支店
本所支店

思想界の革命兒
無我の愛 第四號
毎月二回 一部二錢 一年四拾八錢 郵税不要
▲絶對的自由▲無我愛の實境
▲國際間の罪惡
▲血統的佛教徒は讀め
▲社會主義者と宗教家
▲孔子の未來觀
▲救濟は必定なり
▲念佛懺悔
▲現代宗教家に警告す
▲發車前
▲無我苑生活
發行所 東京巣鴨六二五 無我苑

青春
一部五錢 十二部六十錢 郵税不要◎全紙優美彩刷
▲第二號要目▼
▲愛情と正義◉夫婦◉汝の城今や危し
▲希望し◉汝の倉を守れ◉汝は◉自己を廣告する人◉主義は我也
▲自然に歸れ◉卒業生に一言す◉花
▲主張と婦人外三[illegible]
[illegible]◉冷然夏いページ◉尺八(山水)◉[illegible]
小説もつれ[illegible]◉石道楽◉婦女惑溺
◉本誌の出るや忽ち時代に一異彩を放てり
發行所 [illegible] 青春社

▲本紙定價 一部三錢五厘、十部前金三十錢、五十部前金一圓六十錢、郵税不要
▲廣告料 一行十九字詰三十錢
▲注文 は總て前金に限る
▲郵券代用 は一割増のこと、なるべく五厘郵券の切手を用ひられたし
發行兼編輯人 原眞一郎
印刷人 山田金市郎
發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二千五百五十七番地 直言社
發賣所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社 電話(本局)三二六二
印刷所 東京市京橋區銀座三丁目十一番地 株式會社 國光社 電話新橋特八八、新橋二六九三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY